

開館30周年記念

春のコレクション展
2026

写真で観る 織田廣喜



展示風景イメージ ※実際の会場とは異なる場合がございます。

2026 3.14(土) - 4.12(日)

嘉麻市立織田廣喜美術館

入館料 / 一般:330円(270円) 高大生:220円(180円) 小中生:110円(80円)

開館時間 / 9:30~17:30(最終入館は17:00まで) 休館日 / 月曜日

主催: 嘉麻市立織田廣喜美術館 (指定管理者:株式会社図書館流通センター)

※常設展も併せてご覧いただけます。※有料入館者が計20名以上の団体には()内の団体料金適用
※各種証明証等の提示による入館料減免あり。詳細は当館HPをご覧ください。

お問合せ先: 〒820-0502 福岡県嘉麻市上白井767 TEL:0948-62-5173 <https://odabi.libweb.jp>



開館30周年記念 企画展事業 春のコレクション展2026「写真で観る織田廣喜」

春のコレクション展とは

織田廣喜美術館に収蔵している織田廣喜や地域ゆかりの作家の作品計900点以上の中から、1つのテーマに沿った作品を紹介する展覧会です。織田廣喜の画業に焦点を当てた常設展示とは異なった視点から作品を紹介する展覧会として、オダビの春の恒例展示となっています。

◆本展覧会のみどころ

●写真と絵画でたどる織田廣喜

本展は「写真で観る織田廣喜」をテーマに、林忠彦、山口利明の二人の写真家が捉えた織田廣喜の姿と、同時期に制作された絵画作品をあわせて紹介します。写真が記録する画家の佇まいと、絵画で表現された画家の内面世界を対照的に鑑賞することで、織田廣喜の画家としての歩みとその人となりをご紹介します。

●写真が伝える、画家の「生きた姿」

壮年期から老年期にかけて撮影された写真は、制作の場に立つ画家の姿や日常を伝える貴重な記録です。

★学芸員によるギャラリートークデー

企画展会場にて、担当学芸員が企画展の見どころを解説いたします。

■開催日：①3月14日(土) ②4月4日(土) ※希望者に合わせて随時実施

■参加方法：事前予約不要。当日、直接美術館受付にお声がけください。

1. 事業概要

- ①名称 春のコレクション展 2026「写真で観る織田廣喜」
- ②主催 嘉麻市立織田廣喜美術館 (指定管理者：株式会社図書館流通センター)
- ③会期 令和8年3月14日(土)～4月12日(日)
- ④開館時間 9時30分～17時30分 (入館は17時まで)
- ⑤休館日 月曜日
- ⑥会場 嘉麻市立織田廣喜美術館 展示室 5

- ⑦入館料 一般:330円(270円) 高大生:220円(180円) 小中生:110円(80円)
 ※上記料金で常設展もご覧いただけます
 ※()内は有料入館者20名以上の団体に適用される料金
 ※嘉麻市立織田廣喜美術館条例第11条により証明書等を提示されたとき入館料の減免あり。詳細は美術館HPをご確認ください。

2. 趣 旨

コレクション展は、常設展示とは別に収蔵品を用いた特別展示を行い、さまざまなテーマを通して収蔵品の魅力を多角的に紹介するものです。本展では「写真で観る織田廣喜」をテーマに、写真と絵画という異なる表現を通して、織田廣喜という一人の作家の姿と内面を同時に見つめ直すを試みます。

林忠彦、山口利明という二人の写真家が捉えた織田廣喜やその家族の姿は、画家の日常や人となりを静かに伝えています。壮年期から老年期にかけての織田の姿を写したこれらの写真は、制作の場に立つ画家の存在も含め、絵画とは異なるかたちで織田の歩みを伝える「生きた記録」と言えるでしょう。本展では、こうした写真作品に改めて光を当て、同時期に制作された絵画作品とあわせて展示。「写真」が記録する姿と向き合いながら織田廣喜の「絵」を鑑賞することで、来館者それぞれがその新たな側面や表現の奥行きを感じ取っていただければ幸いです。

3. 出品作品

- 林忠彦の写真作品 23点
- 山口利明の写真作品 23点
- 織田廣喜の絵画作品 15点 **合計:61点 展示予定**

※その他、関連資料として織田が個人的に撮影した取材風景や家族の写真を展示。

4. 作家プロフィール

■林 忠彦(はやし ただひこ)

1918年、山口県徳山市幸町の写真館を家業とする林家に生まれる。高校卒業後、大阪の中山正一写真館にて修行したのち上京しオリエンタル写真学校に入学する。1948年、「小説新潮」にて連載された出世作『文士シリーズ』を皮切りに名を知られるようになり、数々の連載作品を持つ身となった。その後、東郷青児の誘いを受け、秋山庄太郎、大竹省二、早田雄二とともに二科会写真部を結成し、同会員となる。1983年には紫綬褒章、1988年には勲四等旭日小綬章、日本写真家協会功労賞をそれぞれ受章するなど数多くの功績を残した。1990年12月18日に肝臓がんで死去。72歳。

■山口 利明(やまぐち としあき)

1954年、福島県会津若松市に生まれる。日本大学芸術学部放送学科卒業。音楽雑誌編集者を経て写真家としてスタートし、Bruce Osborn、内藤忠行両氏に師事しながら多くのジャズ・ミュージシャンを撮影する。1995年に日本写真家協会展(JPS)、1998年に日本広告写真家協会展(APA)に入選。現在、広告、PRの仕事を中心に活動中。

■織田 廣喜(おだ ひろき)

1914年、嘉穂郡千手村(現嘉麻市)に生まれる。18歳で上京後、日本美術学校に入学。第27回二科展で初入選を果たした後、1946年第31回二科展の出品作「黒装」で二科賞を受賞。1960年に初めてパリを訪れて以降、渡欧を繰り返し、パリの風景や女性をテーマとした作品を数多く制作した。優美で抒情性溢れる作風は国内外で高い評価を得ており、勲3等瑞宝章、フランス芸術文化勲章シュバリエを受章したほか、日本芸術院会員、二科会名誉理事長を務めるなどしている。2012年5月30日に永眠。98歳。